テーマ：学習作文で学びのメタ認知を促す

言語能力をはぐくむモデル校
池田市立神田小学校

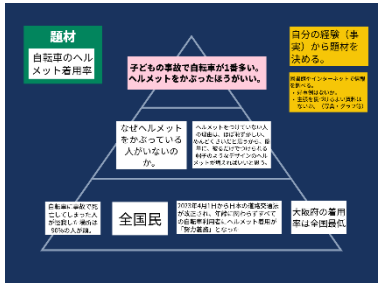
つけたい力

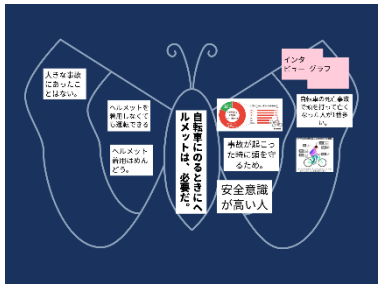
・根拠のある資料や自分の体験を組み合わせ、読み手の立場に立って説得力のある意見文を書く力
・学習過程を客観的に振り返り、自己の変容を認識する力

取組みの概要・ポイント

パフォーマンス課題の設定とルーブリックの事前提示により、児童に目的意識をもった執筆を促すとともに、学習作文を通じて学びのメタ認知を図る。

具体的な取組みの内容　パフォーマンス課題×関連図書





①課題設定：シンキングツールを使って多面的・多角的に主張やその根拠を考える。

②情報収集・整理：集めた情報をもとに文章の構成を工夫し、意見文を書く。

③執筆・相互評価：意見文を読み合い、自分の考えを述べたり、文章のよさを見つけたりする。

説得力のある意見文を書こう

題名「自転車の事故から身を守るために」

[redacted]

私は、自転車に乗る時のヘルメットは必要だと考える。

ヘルメットは、つけている人が少ない。多くの人は、ヘルメットはいらない。もしくはないと答えるからだろう。実際に、クラスのアンケートによると、ふだんヘルメットを被るかという問いに、「被る」「たまに被る」と答えた人は、合わせて二六パーセントとなっている。そして、「被らない」人は、七十四パーセントとなっているのだ。また、クラスで自転車で怪我をしたことがあるかと聞いてみたところ、「ある」と答えた人は五十六パーセント、「ない」と答えた人は四十四パーセントとなっている。怪我をしたことがある人の方が多いが、なぜヘルメットをかぶっている人は二十六パーセントしかいないのだろうか。

ヘルメットをもしつけていても、頭を怪我することを体験したことはないし、そもそも自転車に乗っていて事故が起こったことはほとんどないから付けていても意味がないんじゃないか。と、考える人もいるだろう。

しかし、自転車に乗りながら亡くなってしまった人の傷の部位は、約五割が頭部なのだ。そして、ヘルメットを着けていない人の死亡率は、着けている人の約三倍にも及ぶのだ。

このように、自転車を運転している時の安全のため、自転車に乗る時のヘルメットは、必要だと考える。

[redacted] より

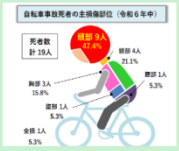
〈意見文を読んで〉
・長い文章だったけどしっかり話していて、令和６年中の死者数を表した図や、アンケートがあってわかりやすかった。

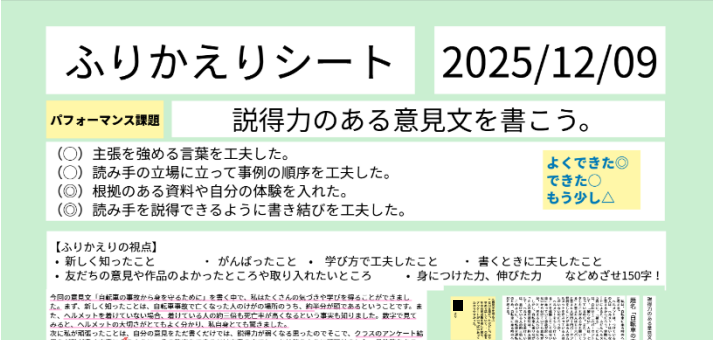
[redacted] より

〈意見文を読んで〉
・声は、大きくハキハキいえてよかったと思いました。あと詳しく怪我にあったことがなくてもそのことをグラフとかで詳しく表していてよかったと思いました。

[redacted] より

〈意見文を読んで〉
・確かに怪我をしたことがあるひとは、なぜヘルメットを被らないのだろう。じぶんは、被ってないからこれからつけようと思った。




ふりかえりシート　2025/12/09

パフォーマンス課題　説得力のある意見文を書こう。

（◎）主張を強める言葉を工夫した。
（○）読み手の立場に立って事例の順序を工夫した。
（◎）根拠のある資料や自分の体験を入れた。
（◎）読み手を説得できるように書き結びを工夫した。

よくできた◎
できた○
もう少し△

【ふりかえりの視点】
・新しく知ったこと　・がんばったこと　・学び方で工夫したこと　・書くときに工夫したこと
・友だちの意見や作品のよかったところや取り入れたいところ　・身につけた力、伸びた力　などめざせ150字！

④自己評価：ルーブリックは事前に提示しておき、課題に取り組むときに子どもたちが意識できるようにする。

⑤自己評価：「学習作文」で、自分の学びを主観と客観の両面から振り返る。

取組みを通しての子どもの変容

本実践を通じ、単なる情報の羅列ではなく、読み手を意識した「情報の質の選択」について子どもの変容が見られた。ルーブリックを事前に提示したことで、児童は「図やアンケートの結果（客観的事実）を自分の主張とどう結びつければ説得力が増すか」を粘り強く推敲するようになった。パフォーマンス課題というゴールとルーブリックによる自己評価、そして他者との読み合いを経た学習作文の実践は、学びを自分事として捉え直し、次の学習へと向かう「学びのメタ認知」を促す有効な手立てとなった。

学校の取組み